

境 新一 研究室／学部学生ならびに大学院生との協働の成果（主に成城大学）

（１）これまでの研究活動

研究・専攻分野の基点は経営学・社会学（経営管理論、事業創造論、組織間関係論、ネットワーク論／紐帯論）に主軸をおきながら、工学、美学なども取り入れた学際研究ならびに実践を一貫して行ってきた。そして実践に基づく実績を現在も多数発信している。

a) 2010年から2022年までの13年間に、コロナ禍を経ながら、申請者自身ならびに学部学生、大学院生が協働して事業創造、商店街・まちづくり・コミュニティ、地域包括ケア事例について15を超える箇所でフィールドワークを継続的に実施してきた。また地元企業や行政とのコラボレーションの成果事例として、小田急電鉄ならびに世田谷区と当研究室のコラボレーションによる沿線まち歩きとフィールドワーク、第一生命との商店街活性化の活動等がある。一方、行政事例として世田谷区を中心にまちなか研究会（同区内8大学との協働）、公共施設調査、それ以外では墨田区、大田区、横浜市、藤沢市、大和市などとの連携活動がある。世田谷区、小田急に関する活動は全てプレスリリースされ、これまでの地元・成城商店街の活動は、SNS、Instagramにて常に公開され確認できる。

【拠点連携と地域価値の創造と向上／エリアプロデュース】

[成城大学特別研究助成]（助成期間は2年間：2022年4月～2024年3月）

研究テーマ：「商店街・廃校・道の駅を基点とする地域活性化：エリアプロデューサーによる共創&協創モデルの提案」

[発表資料] 経営学合同ゼミナール研究発表大会・境 新一研究室「エリアマネジメントに基づく地域の存在価値の向上～長野県飯綱町における主要拠点のトライアングル化と社会善充足の提案より～」(2022年8月)。飯綱町役場でプレゼンテーションを実施。

[報告書]「同上」(成城大学・経済学部ニュース 最優秀賞受賞)。

<https://www.seijo.ac.jp/education/faeco/news/jtmo4200000157mx.html>

【商店街・まちづくり・コミュニティほか】

・日本の商店街活性化に関する課題と展望：東京都世田谷区を中心にタウンマネジメントの視点からの考察、『成城大学経済研究』、205、pp13-54、2014-07。

・創造性のあるまち・商店街づくりの追求：下北沢と成城に関する70年間の変遷とフィールドワークを踏まえた提案、『成城大学経済研究』、229、pp23-73、2020-07。

・拠点連携に基づくエリアマネジメント&プロデュースによる地域創生の検証：長野県飯綱町における存在価値向上の提案を通して『成城大学経済研究(木村周市朗名誉教授古希記念号)』、239号、pp47-82、2023-01。

【空き家活用・公共施設再生ほか】

- ・日本における民泊の運営ならびに制度に関する課題と展望－都市型と田舎体験型の事例比較を中心に、『成城大學経済研究』、222、pp27-74、2018-12。
- ・日本の公共施設の再生と活用に関する検証－図書館、廃校、倉庫の事例をふまえた新たな提案－、大妻女子大学紀要『社会情報学研究』、29、pp107-121、2021-01。

【地域活性化・社会的課題解決ほか】

- ・社会的課題解決ビジネスと社会的企業に関する考察：イタリアの社会的協同組合とイギリスのコミュニティ利益会社の事例をふまえて（木綿良行名誉教授古稀記念号）『成城大學経済研究』、187、pp315-356、2010-02。
- ・地域の変革と公益の実現：B-1 グランプリ、B級ご当地グルメの評価を決める要件（岩本修己名誉教授退任記念号）『成城大學経済研究』、194、pp107-134、2011-11。
- ・東日本大震災後のコミュニティとその変革：商店街、まちづくり、芸術、社会的企業からの検証『グローバル時代に見られる地域社会、文化創造の様相』（岩田一正、阿部勘一編）、pp63-93、2016-03。（岩手、神奈川、岐阜、長野、鳥取、香川での実証）

b) ネットワーク論、紐帯論を基礎として、アートとビジネス、プロデュースとマネジメントを対置させたアートプロデュースの枠組みを初めて提起し、プロデュースの7要件*を整理した。特に、地域について異質な対象同士を結びつけて関係者の協働を促進させ広域に物事を解決できるプロデューサーに関する研究と実践については、申請者自身がエリアプロデューサーとして検証と実践を図ってきた。*プロデュースの7要件“FNSDIDB”英頭文字から略記：五感， ネットワーク， 物語， デザイン， 戦略情報， 意思決定， ブランド。

【企業グループ、組織間関係、紐帯】

『企業紐帯と業績の研究－組織間関係の理論と実証』単著、文眞堂、2003、ver2: 2017。

【事業創造】

『新事業創造のための発想法－素人発想・玄人実行にもとづくブレインマップの手法』境 新一・谷 真哉・榎本 正（共著）、文眞堂、2022。

【プロデュース・マネジメント・アート・デザイン・価値創造など】

- ・アートプロデュース論の枠組みー「千の音色でつなぐ絆」プロジェクトを例としてー」、『社会・経済システム』、34、 pp73-82、 2013-10。(J-Stage、査読稿)
- ・プロデューサーによる価値創造の過程:ネットワーク構築、デザイン思考ならびに意思決定の視点からの考察 (山倉健嗣先生記念号)『横浜経営研究』、37(1)、 pp281-298、2016-06。
- ・ポスト・コロナにおける新事業創造のプロデュース手法:素人発想・玄人実行、ブレインマップによる原点回帰と価値創造の提案『成城大学経済研究』233、 pp41-85、 2021-07。
『アート・プロデュース概論』単著、全280頁、中央経済社、2017-02。2021-12 (2刷) [成城大学科研費助成事業等間接経費による出版助成]
『美学の事典 Encyclopedia of Aesthetics』(吉岡 洋、岡田 温司、津上 英輔、全768頁)、(共著、担当部分「第8章 社会と美学」pp602-605、丸善出版、2020-12。
『アグリ・アートー感動を与える農業ビジネスー』(編著)境 新一ほか(共著、担当部分:1-3ほか計6章分、全304頁)中央経済社、2020-02。[同上科研出版助成]

c) 科学の最終的な目標は社会における公益・公共善の実現であることから、公益・公共善に関する研究と実践に学会副会長・編集委員(長)として携わっている。

『公益叢書 第一輯』～『公益叢書 第七輯』文眞堂、2013～2022。全7巻を刊行。

以上